

平成 27 年度特別養護老人ホーム「はなの家とむろ」事業報告

昨今、有料老人ホームでの不祥事の発覚や介護施設内での虐待の増加などが社会問題化し、世間の介護事業者を見る目は一段と厳しくなっている。事故・トラブル発生の際は事前に、できる限り小さいうちに摘み取ることが重要であると考え、今年度は施設理念の唱和による康仁会が目指すものの共有とモラル低下防止を最重要課題として取り組んだ。

また、厚木市保健福祉計画に基づく睦合南地区地域包括支援センター受託に向けて応募したが、結果に結びつけることはできなかった。

平成 27 年度の施設目標に沿って総括および年間を通しての実績を報告する。

1. 根拠に基づいたケアを提供しよう

- ① 個々の利用者に対して、施設ケアプラン、看護計画、リハビリ計画、栄養計画、24 時間シート等が連動しケアの充実が図れるように努力した。
- ② 看取り開始時および終了後のカンファレンスが全ケースに対して行えるようになったこと、家族の同意がいただけた利用者には訪問等によるグリーフケアも行うことで、職員のモチベーションアップや今後の業務に繋げることができた。
- ③ ユニットリーダー実地研修施設を目指し、そのマニュアルに沿って「はなの家とむろ」としてのユニットケアマニュアルの作成を目指した。
- ④ 今年度ユニットリーダー研修修了者が 3 名増えて、すべてのユニットにリーダー配置ができる人数となった。喀痰吸引等研修講師養成研修（看護師）1 名、認定特定行為業務従事者研修（介護職）3 名、認知症実践者研修 1 名がそれぞれの研修を終了することができた。
- ⑤ 看護部、介護部、相談支援部門で初めて実習生の受け入れを行い、それぞれの分野で業務改善や質の向上に取り組むことができた。

2. 地域に根ざし信頼される施設になろう

- ① はなはな健康塾（地域講座）は「終活」をテーマに 3 回コースで実施した。内容には満足いただいたが参加者をもっと増やしたかった。次年度以降は広報の仕方等検討する予定である。
- ② 機関紙「はなだより」は予定通り年 4 回発行した。印刷会社を使わずに、職員が編集・校正を行い手作りでの発行を試みた。次年度以降は自前で行っていく予定である。
- ③ 地域のお祭りや防災訓練等に協力し、それがきっかけとなり、施設に定期的にダンスやハーモニカなどのボランティアに来ていただける団体を増やすことができた。
- ④ ご家族や地域のボランティアの協力を得て、今年度初めて「はなはな祭り」と題した夏祭りを開催することができた。

3. 健全な施設運営で介護報酬改定を乗り切ろう

(1) 入居部門は、タイムリーな情報収集を行い、必要度の高い利用者を積極的に受け入れよう

① 27年度ベッド稼働率平均 97.9%。施設内看取り 22名。退所 5名。入院延べ 42名。平均介護度 3.88。

3月末現在入居待機者 49名（内、介護度 4・5 17名）。

② 入院者も多い中で、昨年度（97.6%）より 0.3%ではあるが高い稼働率となった。今年度より入居は介護度 3以上が対象となり、加算取得には介護度 4・5 の入居が 8割程度必要なため、入居者選定には苦慮した。

(2) ショートステイ部門は、緊急や医療依存度の高い方を積極的に受け入れ、稼働率 80%を目指そう

① 27年度ベッド平均稼働率 66.8%。平均介護度 3.01。

② 今年度よりミドルステイに減算が導入されたため、昨年度（74.0%）には及ばなかった。また、入居に空きが出るとミドルステイから入居にわずかな期間で移行する利用者が多く、ショートの稼働率のアップは非常に厳しい状況である。

③ ショート部門で癌末期利用者 1名の看取りを初めて行った。

(3) デイサービス部門は、特別養護老人ホームが運営するデイサービスの特色を生かし、月 300回を目指そう

① 27年度平均稼働率 59.4%、1ヶ月平均 307回。平均介護度 2.96。

② 昨年度（50%、月平均 247回）と比較して、稼働率で約 10%、平均回数で 60回アップし、目標を達成することができた。次年度は小規模から通常規模となり報酬も約 1割減となるため、更なる利用者の獲得に尽力したい。

今年度は福祉医療機構の返済が本格化し、介護報酬のマイナス改定もあったが、各種加算の取得を死守し入居と通所の稼働率アップで、全体としては前年以上の収入を確保することができた。